

台灣觀光

642

2025
JUL · AUG

日本語版
www.tva.org.tw

潮風に乗って
旅をしよう

MY SUMMER OCEAN

under
the sea

馬祖、世界に羽ばたくアートの島
台東の食文化に触れる、スローフードフェスティバル
台日 32 の「同名駅」をめぐる記憶の旅

Hazy Humid Day と一緒に金瓜石へ



2025 Jun.28 —→ Sep.28

台電金水基地 新北市瑞芳区洞頂路361号
10:00 - 18:00 ※每週月曜休館

主催

文總 Yoshitomo Nara Foundation
GACC (Japan General Incorporated Foundation)

実施

台電電力公司
Taiwan power company

TPC
PUBLIC ART
台灣公共藝術

協力

文化局
CULTURE BUREAU

後援

兆豐銀行
Mega Bank

台灣中油股份有限公司
CPC Corporation, Taiwan

協贊

去趣
chicTrip

yoxi

iRent

特別感謝

公益財団法人 台北事務所
日本台灣交流協會
Japan-Taiwan Exchange Association

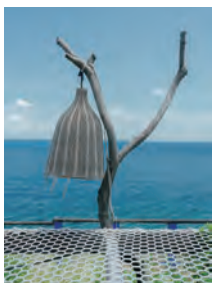


Cover Story

FEATURES

010 Cover Story

潮風に乗って旅をしよう 水湳洞・東海岸・小琉球



Cover Story

TRAVEL INSPIRATION

004 町さんぽ

同じ名前の道をたどって—— 台日 32 の「同名駅」をめぐる記憶の旅

030 島旅デビュー

世界に羽ばたくアートの島・馬祖 島の心と記憶を海からみる



SPORTY TAIWAN

032 愛しい台湾味

台東スローフードフェスティバル 地域の味に触れ、風土を料理に取り込む

036 SPORTY TAIWAN

SUP でめぐる台湾の水辺風景 北から南へ、海と湖が織りなす多彩な表情

038 コラム

FOUNTAIN 新活水 第 22 回



島旅デビュー

040 コラム

台湾における朝食の社会学

042 コラム

台湾・風景・詩

会長・発行人／簡余晏
栄誉会長／葉菊蘭
副会長／蘇成田、凌瑞、莊豐如
編集顧問／鍾逸寧、陳婷妤、張仲宇
発行所／財団法人台湾観光協会
〒台北市忠孝東路4段285号8F-1
TEL +886-2-2752-2898
FAX +886-2-2752-7680
E-mail yasir@tva.org.tw
https://www.tva.org.tw

台湾観光協会東京事務所
〒日本国東京都港区
西新橋1丁目5-8 川手ビル3F
TEL +81-3-3501-3591 ~ 2
FAX +81-3-3501-3586
E-mail tyo@go-taiwan.net
台湾観光協会大阪事務所
〒日本国大阪府北区西天満4丁目14番3号6F
TEL +81-6-6316-7491
FAX +81-6-6316-7398
E-mail osa@go-taiwan.net

制作／故事 StoryStudio
編集長／徐豐恩
編集統括／林家豪
編集協力／劉亞涵、大洞敦史
デザイナー／劉耘桑
コンサルタント／鳳氣至純平
特約作者／吳寧謨、鄭雅文、林芷婕、游姿穎
翻訳者／台灣北菱股份有限公司、
津村葵、賴英泰
プロジェクトマネージャー／冉揚、林宛豪

〒台北市承德路一段8号7楼-1
TEL +886-2-2369-5966
E-mail contact@storystudio.tw
https://storystudio.tw/
印刷／經緯印藝實業有限公司
台湾観光庁
E-mail tad@tad.gov.tw
https://taiwan.net.tw
https://jp.taiwan.net.tw/

台湾観光 Facebook



台湾観光 Instagram



交通部觀光署サイト





同じ名前の道をたどって 台日³²の「同名駅」をめぐる記憶の旅

text／鄭雅文 photo／古佳立、張麥斯

自分と同じ名前を持つ誰かが、この世界のどこかに暮らしている。そんな想像をしたことはありませんか？ 同じように、遠く離れた土地に、自分の知っているあの駅と同じ名前の駅がある。そんなイメージを描いたことはありませんか？

台湾と日本の間には、そっくり同じ名前の駅が、実に32か所も存在します。まるで時空を超えた鏡のように、地図の中で静かに向かい合っているのです。これらの同名駅は、地理的なつながりを反映していると共に、かつての植民地時代の記憶や文化の交流、そして人々の記憶が幾重にも刻まれた人文的な軌跡をも映し出しています。

二〇一五年に始まった「台日32同名駅交流プロジェクト」は、鉄道旅行と歴史探訪を融合させた文化イベントとして、多くの鉄道ファンや旅人たちを惹きつけてきました。参加者は各地の小さな駅を訪ね、昔の地名や、その土地に暮らす人々が持つ物語に耳を傾けます。

台日同名駅交流プロジェクト 32駅で紡ぐ百年の記憶

「台日32同名駅交流プロジェクト」は、台湾の鉄道文化協会と鉄道愛好家たちの協力によって展開されました。旅行を通じて地域活性化を図り、鉄道を媒介に文化的記憶や歴史をつなぐことを目的としたこの取り組みは、二〇一五年に台湾で第一回のイベントが開催されました。

初期はスタンプラリーや現地訪問が中心で、日本からは台湾の駅と同じ名前を持つ人々が招かれ、「一日

駅長」として交流イベントに参加するなど、さまざまな交流が行われてきました。二〇二三年にはモバイルアプリによるスタンプラリーが導入され、二〇二四年にはバイリンガルガイドやAR(拡張現実)が加わり、より深い理解と参加型の体験が可能となりました。デジタルとローカルが融合した、新しい文化旅行のスタイルとして発展しています。

32同名駅は、台湾の東西南北にあまねく分布しており、独自の風景があります。北部の松山や板橋などは都市的な景観が広がり、中部の横山

台日32同名駅交流プロジェクト



電車、出発!



青春・若旅!
台湾へGO!

台日32同名駅



や豊原では日本統治時代の木造駅舎が今も残っています。南部の田中や新市は農村風景や製糖産業の歴史を感じさせ、東部の池上や関山では原住民文化やスローシティの取り組みが見られます。

これらの駅名の多くは日本統治時代に命名されたもので、地元の地形や既存の日本の地名にちなんで名付けられました。たとえば「松山」は、日本の四国・愛媛県松山市に由来し、当時台湾に住んでいた日本人たちにとって、「他郷にして故郷を想う」感覚を呼び起こす地名でもありました。交流プロジェクトが進展する中で、「愛媛・松山駅」と「台北・松山駅」は姉妹駅として提携し、地域間のつ

ながりを深める取り組みが行われています。

現在、この交流は台湾国内にとどまらず、日本国内にも広がっています。松山、池上、追分など、同名駅のある地域では、姉妹駅の提携を通じて修学旅行や展示交流、観光ガイドの共同制作など、さまざまな形で双方のつながりが生まれています。

今回の旅では、桃園、富岡、そして板橋の駅を訪ねます。列車のリズムに揺られながら、その土地に息づく物語に耳を傾け、遠く離れた国から届く、どこか懐かしい響きに出会ってみましょう。



ジンフーゴン 景福宮

清王朝乾隆10年（1745年）に創建された古刹。開漳聖王を祀る、桃園市の地理的・信仰的な中心地であり、毎年盛大な文化イベントも開催されています。

● 桃園市桃園区中正路208号
● 06:00～21:00／年中無休



桃園駅と富岡駅

改札を抜ければ、そこにある日常

桃園
Taoyuan



ジョンチーベンブー 中崎本舗

1960年代創業の老舗菓子店。プリンケーキ、カステラ、蒸しケーキが看板商品で、伝統の味と革新の風味が地元で愛されています。

● 桃園市桃園区中山路56号
● 08:00～22:00／年中無休

中崎生の蛋糕

西部幹線の桃園駅は、日本統治時代以来の主要なハブ駅の一つです。一八九三年に開業して以来、幾度もの改築と拡張を経て、北台湾と南部を結ぶ交通の要所として、また桃園市中心部の玄関口としての役割を担ってきました。駅周辺には中正芸文特区や繁華街が広がり、昼間は車と人で賑わい、夜には中正路夜市や屋台グルメを目当てに多くの人々が訪れる、交通の利便性と都市の風景を併せ持つ大規模な駅です。この駅は、日本の

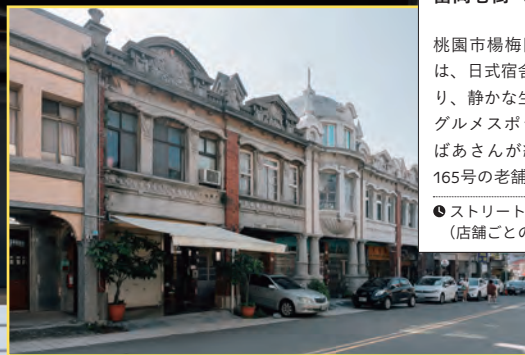
愛媛県にある「桃園駅」と同名であることから、台日同名駅の代表的な存在ともなっています。一方、桃園市楊梅区にある富岡駅は、静かで控えめな佇まいが印象的です。一九〇〇年に開業し、当時は「伯公岡（ボーゴンガン）」と呼ばれていました。農産物輸送のために設けられた小さな駅は、時代とともに変化し、現在では地域住民の通勤や観光の拠点として親しまれています。駅自体は小規模ながらも、どこか懐かしさ

を感じさせる雰囲気が残っています。周囲には「富岡老街」や「伯公廟」、客家集落などがあり、米干（ライスヌードル）や客家料理も楽しめます。のんびりと自転車や田園を巡るのにもぴったりの場所です。群馬県にある「富岡駅」と同名のこの地は、地方産業の変遷と郷土の記憶を背負いながら、都市の縁にそっと佇んでいます。駅とは単なる「到着地点」ではなく、土地と深く向き合う「対話の入り口」なのかもしれません。

フーガンラオジエ 富岡老街（富岡駅周辺）

桃園市楊梅区に位置する「富岡老街」には、日式宿舎や赤レンガの古民家が今も残り、静かな生活感が漂います。地元の人気グルメスポットには、1985年創業の呂おばあさんが経営する『伯公小吃』や住所165号の老舗『信義飲食店』があります。

● ストリートは終日開放
（店舗ごとの営業時間は要確認）



富岡
Fugang

桃園市
楊梅區

◀ 6.9公里(km) 1.7公里(km) ▶

楊梅 Yangmei 新富 Xinfu

新板特區・駅前商圈

ショッピング、グルメ、エンタメが集まる新北市屈指の商業エリア。

📍 新北市板橋区・新站路と県民大道の交差点周辺



酒吧暖流 WARM FLOW

板橋の人気バー。2年連続で北部最優秀バー賞を受賞。抽象画が描かれたカードとともに提供されるカクテルは、それぞれが一つの芸術作品のよう。自由にカクテルを選べる楽しさと、気取らずリラックスできる雰囲気も魅力。

📍 新北市板橋区觀光街56-1号
🕒 20:00~03:00



ボンバイススイーツ店 Ponpie 澎派甜點店 板橋店

台湾各地のフルーツを使ったタルトで人気のスイーツ専門店。小規模農家の食材にこだわり、美しく繊細な味わいが魅力。

📍 新北市板橋区民權路202巷4弄1号
🕒 12:00~19:30 / 年中無休



東京23区にある「板橋駅」と同じく、台湾の板橋駅も都会の中にある重要な交通拠点です。新北市の中心に位置し、一九〇一年の開業以来、街の発展とともに姿を変えてきました。

一九九九年には新駅舎が竣工し、現在では台湾でも数少ない「台湾新幹線・台湾鉄道・台北MRT・バス」が一体となった巨大な交通ハブへと成長。一日あたり数十万人が利用するこの駅は、まさに北部の玄関口といえる存在です。駅舎は地下構造が中心で、地上部分には大型デパートやショッ

ピングモール、オフィスビルが連なり、機能性と都市生活が融合した街並みが広がっています。

隣接する「新板特區」は、新北市を代表するショッピング&エンタメエリア。「環球ショッピングセンター」や「Mega City 板橋大遠百」などの百貨店が立ち並び、買い物客や観光客で賑わいを見せています。「板橋駅前広場」は、クリスマスシーズンになると「新北クリスマスランド」のメイン会場へと姿を変え、光の装飾やアートが街を彩り、全国的にも有名な季節の名所となっています。

板橋駅

新北の鼓動を支える、
交通と文化の要所

毎年8月は
台湾でグルメを堪能しましょう！

したら次は1年後



2025 台湾美食展
8月1日～4日
台北世貿一館にて
旨味あふれる開催！



「旨みのおもてなし」をテーマに、台湾各地の新鮮で豪快な海の幸が勢揃い。

毎年8月は、台湾でグルメを満喫する絶好のチャンス！台湾美食展は、「台湾イベントカレンダー」にも名を連ねる国際級イベントとして、今年は「旨みのおもてなし」をテーマに、台北・世貿一館にて8月1日から4日まで開催されます。会場では「フードマートギャラリー」「台湾味探り」「金メダル名物」「異国グルメ」の4大ゾーンを展開。台湾全土から厳選された海の幸や農産物、多彩な料理が集結し、台湾ならではの多様な民族と食文化が織りなす味わいを通じて、豊かな食の多様性を存分に体感できます。



逃



台湾グルメが一堂に集結！
チャンピオンに輝いた茶・酒・
コーヒー&お土産が一気に揃う！

産地から食卓まで、台湾美食展では、産地直送の野菜や果物、海産物と食材を購入できるほか、各地のビブグルマン推薦グルメや五つ星ホテルによるミシュラン級の食体験も楽しめます。台湾の実力派グルメを、ぜひ味わってみてください！世界で注目を集めるチャンピオン級のコーヒー、茶、酒、チョコレート、ジャムなど、多彩なプレミアムお土産が勢揃い。中でも、世界ウイスキーコンペティション金賞受賞の台湾OMARウイスキーや、会場限定の台湾風力クテルも要注目！その場で調理された料理を味わえるほか、持ち帰りできる逸品も充実。台湾が世界に誇る「金賞の味」を、ぜひ体験してください。

名シェフによるライブデモンストラ
台湾の味、お土産と一緒に
食の芸術、チャンピオンの一皿

毎年、台湾美食展には著名な料理人や匠たちが参加し、フルーツカー

ピング、パンアート、シュガークラフト、飴細工など、国際大会で数々の賞を受賞した名匠たちが、卓越した技で魅せるアート作品を披露します。台湾の海の幸をテーマに、ライブデモンストラや料理セミナー、シェフ直伝の料理教室も多数開催予定です。台湾各地の旨い物で、世界中からの来場者をおもてなし。会場近くには人気観光地・台北101もあり、グルメと観光の両方が楽しめるチャンスです。この夏、美食の島・台湾へようこそ。豊かで多彩な食文化の魅力を心ゆくまで堪能ください。



MY SUMMER OCEAN

潮風に乗って旅をしよう

text／編集部 photo／李維尼、Rafael Wu、林家賢、Jimmy Yang、江賢二藝術文化基金會、
交通部觀光署東部海岸國家風景管理處、成功海銀行、WEI 崴、路邊烤肉

PART 1

北海岸・水湳洞 若々しい風が吹き抜ける、山と海に抱かれた場所

PART 2

東海岸 都会から離れ、この島のもう一つの顔を持つ場所でゆったり過ごす

PART 3

小琉球 自然と一番親密な場所 ウミガメと泳ぐ島の日常

夏。それは海との距離が一番近づく季節です。周りを海に囲まれた台湾には、それぞれ異なる表情の海岸線が連なり、その一つ一つに、独自の生活や景色から生み出される物語が潜んでいます。今号のカバーストーリーでは、読者の皆様に魅力あふれる三つの海岸線へご案内します。旅の始まりは、台北市街地から車でわずか1時間の北海岸から。書店を巡り、美味しいピザを食べ、潮風に包まれながらフレンチビストロのこだわり料理に舌鼓を打ち、この地に移り住んだ若者達が、どのように自分らしく肩の力を抜いた、新しい生活のリズムを築いているのかを探っていきます。続いては東海岸へ。都会の喧噪も、慌ただしい時の流れも全て忘れ、海と寄り添ってオフラインの休日をごせる癒しの場所をご案内します。最終地点は、豊かな海の生命に満ちた小琉球。澄み渡る青い海に潜ると、ウミガメと一緒に泳いでくれるひと時が楽しめる場所。それはあなたの心に深く刻まれ、台湾の海がもたらしてくれる、忘れられない思い出となるでしょう。

夏真っ盛りのこの時期、潮風に乗って、旅に出かけてみませんか？

陰陽海は鉄分を含む鉱物と海水が混ざり合い、夢のような海の色を生み出しています。

PART 1

北海岸・水湊洞

若々しい風が吹き抜ける、
山と海に抱かれた場所



水溝洞の明里路には、この地に移り住んだ若者たちが次々と個性豊かな店を開き、若い感性が息づく新たなライフスタイルの雰囲気を生み出しています。

夏の北海岸は、山と海の間の日差しが降り注ぎ、海からの風が古い家屋の色褪せた屋根瓦や石段をそっと吹き抜け、この静かな山海に囲まれた街に、爽やかさと寛ぎを運んでくれます。台北の中心街から車でおよそ1時間程度の、新北市瑞芳区・水溝洞は、美しい海の景色に囲まれ、歴史とそこで暮らす人々の生活の物語が綿々と紡がれてきた場所です。

水溝洞の歴史は日本統治時代まで遡ることができます。ここは、金や銅などの鉱山資源が豊富だったことから「十三層精錬場」（現在の十三層遺跡）が建設され、やがて自給自足の鉱山村として発展していきまし

た。最盛期、瀧洞小学校の生徒数は数百人に上り、村の中には銭湯やビリヤード場、映画館などができ、大変活気に満ちていました。しかし、一九八七年に台湾の鉱業生産が全面的に停止されると、水溝洞も一気に閑散とし、多くの住民がこの地を離れ、次第に色褪せていく歴史の風景と置き去りにされた空間が残るだけとなったのです。

しかしここ数年、ゆったりとした生活を求めてこの地にやってきた若い起業家たちの手によって、レストランや書店、ピザ屋、カフェなどが一軒また一軒と増えていき、小さな町に再び明かりが灯り、水溝洞に新





3



2



1

1. レストラン「巡回 Huihui」のシェフ・涵雁さん（右）と夫のJonathanさん（左）。
2. 「巡回 Huihui」では、さまざまなナチュラルワインが楽しめます。3. 「非書店」の店主の一人、曉晴さん。

たな物語が芽吹いています。

一番最初に多くの人々の注目を集めたのは、山の中腹の一角にあるレストランバー「巡回 Huihui」でした。フランスで料理を学び、パリのレストランで働いていた経験もある、シェフの涵雁（ハンヤン）さんは、二〇二三年、夫のジョナサンと共に台湾へ帰国した際、アーティストの友人に誘われ、水滴洞に滞在しました。その滞在中、二人は毎日、山道を散歩し、海や空の雲を眺めながら、この山に抱かれた海が望める小さな街に、心奪われてしまったそうです。

最終的に、彼らはこの地に根を下ろすことを決め、自分たちで古民家を改装して、「巡回」がオープンしました。このレストランの料理は、旬の食材とその時々インスピレーションに基づいて創作され、それぞれの料理に合わせて厳選されたナチュラルワインと共に、山と海の移ろいを舌で味わうことができます。涵雁さんは、「食卓とは、サービスではなく『おもてなし』です。」と言います。水滴洞を訪れる全ての人に、しばらくの間、慌ただしさから開放され、土地や人々との繋がりを

改めて感じてほしい。それが彼女たちの願いなのです。

そこからほんの少し歩いた場所に、店名からして物語を感じさせる空間があります。その名も「非書店（書店に非ず）」。共同創業者である曉晴（シャオチン）さんと映像クリエーターの猫力（マオリ）さんは、本が縁で出会いました。元々新疆出身の曉晴さんは、子供の健康を考え、都会の喧騒を離れて水滴洞に拠点を構え、アトススペースを経営してきました。そしてある日、猫力さんへおすすすめ本のリストを手渡したことがきっかけで、二人でインディーズ系書店を開く運びとなり、この村に「本」にまつわる新たなランドマークが生まれたのです。

非書店には看板も、決まった動線やジャンル分けもなく、詩や社会的なテーマ、地域に根ざした書などが並ぶ書棚の一冊一冊全てが、静かに読者との対話を待っているかのように佇んでいます。「是」に対して、「非」の曖昧さや不確実性は、より多くの開放的な余白を生み出し、この空間にも新たな可能性をもたらしています。

そのため、ここではしばしば

6



1



—



年月日
客 100 和
峰 社茶
山 馬龍
茶 190
味 香 蘭島
味 香 蘭島
杜 茶 茶 1
中 咖啡
吳 今 白 豆 第
HUI ONE
彩 肖：一

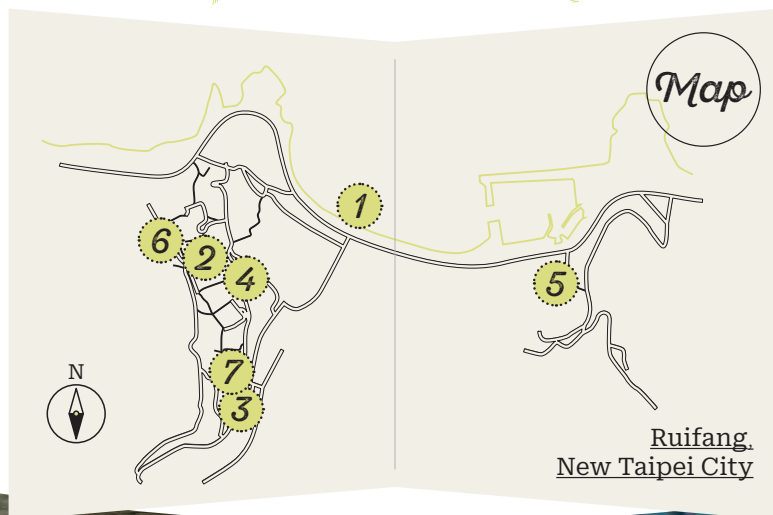
香りと日常をしっかりと感じることでできます。

人以外で、水滴洞で最もよく遭遇

ともと友人のために料理を作るのが好きで、そのピザがあまりにも美味しかったため、水滝洞に店を構えることになりました。彼らの作るピザは、奇をてらった路線ではなく、伝統的なイタリ안의風味と地元素材を融合させたものです。例えば瑞芳の地元のおばあさんたちが作った豚のカシラの燻製を使った「マーガオ豚バラピザ」は、原住民族の風味をイタリ안의ピザ生地に乘せて、驚くべき美味しさを生み出しています。ピザの一枚一枚にこの山の町の

水滝洞では、この新しい住民と昔からの住民、本と料理、猫と潮風が共に日常を織りなしています。ここには、派手な看板やきつちりとスケジュールが計画された旅はありませんが、ゆったりとした“空気が流れています”。暁晴さんがこの場所のことを「とても古めかしくて、無邪気で、そしてありのままの場所」と表現したように、時間の痕跡とありのままの自然の間を行き来できるこの空気、私たちを謙虚で穏やかな気持ちにさせてくれるのです。

編集部おすすめスポット



山生。宅

非書店

濂洞小学校
海中滑り台



About Pizza 水滴洞店



6 濂洞小学校 海中滑り台

水滴洞にある、隠れたフォトスポットです。もともとは生徒が校舎から素早く下の避難場所まで滑って行けるように作られた防災避難用の設備でしたが、その後、「海中の世界」をテーマに色鮮やかな絵が描かれ、実用性と遊び心が同居したユニークな場所に生まれ変わりました。

📍 新北市瑞芳区洞頂路101巷80号 🕒 土、日曜開放

7 About Pizza 水滴洞店

古い邸宅を利用した、手作りの窯焼きピザ専門店。北東海岸の景色を一望できるテラスがあり、山と海を眺めながら、地元食材とアイデア溢れる料理の美味しい融合をたのしむことができ、美食家達からも高い支持を得ています。

📍 新北市瑞芳区明里路102号 🕒 11:30~21:00 / 不定休

1 陰陽海の景色

水湳洞に位置する陰陽海は、黄金色と深い青の海水が交わる独特の風景で知られています。これは鉄鉱物と海水が混ざりあい、自然に太極図の様なコントラストの独特の景観が生み出されたもので、東北角を代表する奇景の一つとなっています。

📍台湾新北市瑞芳区洞頂路124号
🚌バス856・826で「水湳洞」下車。

2 濂洞小学校 校門側の長い階段

壮麗な陰陽海に面している階段で、両側にはレトロな雰囲気の日風建築が並び、その風景はまるで新海誠監督のアニメに登場するような、幻想的な雰囲気を醸し出しています。「小鎌倉」とも呼ばれ、写真愛好家たちに大人気のスポットとなっています。

📍新北市瑞芳区洞頂路101巷

3 非書店

単なる書店ではない書店。看板もなく、自分を型にはめることに躍起になることもなく、あらゆる可能性を受け入れる象徴である「非ず」という名を冠しています。また不定期で展示会やワークショップなども開かれ、山海の間にある文化が集う場所となっています。

📍新北市瑞芳区明里路83号
🕒金曜～火曜 12:00～19:00／水・木曜休

陰陽海の景色



濂洞小学校
校門側の長い階段



迴回 Huihui



4 迴回 Huihui

以前パリでシェフをしていた許涵雁さんが開いたレストラン。パリのビストロのような雰囲気の中、山と海に囲まれた場所で絶景を眺めながら、北海岸で採れた食材とフランス料理を融合させたメニューを、幅広いセレクトのナチュラルワインと共に楽しむことができます。

📍新北市瑞芳区洞頂路155-4号
🕒金曜 12:00～15:00、
土・日曜 12:00～14:30、18:00～21:00

5 山生。宅

山海が交わる場所にあり、床から天井まである大きな窓から、海を一望することができます。店内のインテリアは、ナチュラルとミニマルなスタイルが融合し、静かで心地よい雰囲気が漂っています。

📍新北市瑞芳区明里路34号
🕒10:30～18:30／水曜休

PART 2

東海岸

都会から離れ、
この島のもう一つの顔を持つ場所で、
ゆったり過ごす





田んぼの中をまっすぐ東の太平洋に向かって伸びる「金剛大道」では、果てしなく広がる雄大な風景を一望できます。

台東の長濱にある、金剛大道から東海岸に向かう道は、まるで私たちの心を静かに浄化してくれるかのようないきいきとした空気感。幾層もの田んぼに挟まれ、海へと真っ直ぐに伸びる道を走ると、風に揺れる稲穂がまるで金色の波のように、絶え間なく美しいリズムを描き出していきます。金剛大道という名称は、遠くにそびえる金剛山に由来しており、その容貌はまるで大きな猩猩（ショウジョウ）が仁王立ちしているかのように堂々としていて、目の前には思わず息を呑むほどの、山海の輝きを描き出す景色が広がっています。視界を邪魔する電線は一本もなく、目の前には遠くの山々どこまでも広がる空、そして果てしなく続く太平洋、それがここ長濱の純粋な日常風景なのです。

ゆったりとした時間が流れている長濱ですが、その一瞬一瞬はずつと深い場所にまで刻み込まれています。この海岸線では、稲作で季節の移ろいを記録していく人もいれば、薪と窯でこの土地の味を守り続けている人もいます。竹湖村の「海塩おじいさん」といえば、「蔡（ツァイ）班長」の愛称で親しまれている

アミ族の長老・蔡利木さんのことですが、蔡班長は今でも、太平洋の海水を薪でじっくりと煮詰めるという昔ながらの方法で、一鍋ずつ丁寧に時間をかけて、最も純度の高い手作りの塩を作り続けています。工房には、海の香りと薪をくべる火の香ばしい匂いが漂い、ここを訪れる旅行者は、塩を買うだけでなく、塩を炒る作業を体験することもできます。塩を炒りながら、海と塩にまつわるおじいさんの話に耳を傾け、職人の技を直接体験することで、海からここまでたどり着くのかかった時間の温もりも、一緒に味わうことができます。

海沿いを更に進んでいくと、山と海に挟まれた小さな漁港の町——成功鎮に到着します。東海岸で最大の港を持つこの小さな町は、かつては「麻老漏」（マラオロウ）と呼ばれ、日本統治時代には「新港」に改称され、戦後に現在の希望と祝福の象徴である「成功」という名称になりました。大海と共にある暮らしは、この地独特のリズムを紡ぎ出し、現在でも成功鎮には、他所ではほとんど見ることのできない海女の文化やゆったりとした生活のリズムがしっ



台東県成功鎮には、東海岸最大の漁港があり、カジキやシイラなどで知られています。町全体は静かでのんびりとした雰囲気包まれています。

かりと息づいています。また、毎日漁船が港に戻るたびに、競りの会場が活気づいて賑やかになる様は、この地域の経済と日常生活を象徴するものです。カジキ、シイラ、トビウオなど、東海岸の代表的な魚がここで競り落とされ、目の前で繰り広げられる漁師さんたちの日々の仕事ぶり、奮闘ぶりは圧巻です。

その港からほど近い場所に、土地銀行という銀行がリノベーションされた空間、「成功海銀行」があります。今は飲食・展示・文化を融合させた体験型の新しい施設に生まれ変わっており、ももとの銀行の構造をそのまま生かしつつ、海を感じさせるモチーフや地元のデザインのことだわりがふんだんに取り入れられています。

ここのレストランで、「海女さんの潮間帯セット」を注文すると、新鮮なトビウオや海藻だけでなく、海女文化や漁村の暮らしそのものの縮図まで味わうことができます。この他、「海女文化」をテーマにした体験イベントもあり、潮間帯での採集や塩漬の技法を学ぶことができ、味覚や体験を通して、東海岸の思い出を持ち帰ることができるようになります。



港からほど近い「足跡再現生活館」では、港の海を眺めながら、食事と足つぼマッサージを楽しむことができます。

ています。

この漁村のゆったりとしたリズムをもっと楽しみたいなら、「足跡再現生活館」がおすすめです。こは、足つぼマッサージとおまかせ料理が一緒になった癒しの空間で、窓の外に広がる太平洋の絶景を眺めながら、室内でフロによる足つぼマッサージを受け、ゆっくりと呼吸をここの心も体も少しづつほぐしていく——そんな風に、この小さな町とシンクロできる体験もおすすめです。



月明かりの下、海風を感じながら楽しむ音楽イベント「月光・海音楽祭」。

市街地を離れて更に南へ進むと、そこにはまた一味違うアートとの出会いが待ち構えています。台東の金樽にある「江賢二芸術園区」は、山と海の間広がる芸術と建築の新たな可能性を表現する場所として、芸術家の江賢二氏が12年もの歳月をかけて創り上げた東海岸のアートコロニーです。コンクリート打ちっばなしの建築は、その地の地形に沿って建てられ、中心にある「静池」の水

面は、まるで鏡のように太平洋の空と雲を映し出しています。海に面したこの谷では、人と土地、芸術と自然が結びつき、ゆったりと芸術と対話を楽しむことができるのです。

また、夏の東海岸を訪れるなら、毎年7、8月に開催される「月光・海音楽祭」は見逃せません。このイベントは、成功鎮の都歴遊客センター前の広大な草原で行われ、海を同伴者に、月明かりのカーテンがたなびくステージに招かれた、原住民族や世界的なミュージシャン、インディーズバンドや歌手の歌声や演奏を楽しむことができます。夜の帳が下りると、観客たちは地面に腰を下ろし、海の風と音楽が響き合う中で、自分の体と自然が再び結びつい

ていくのを感じます。喧騒と享楽の裏には、大地と人との深い共鳴があるのです。

東海岸の時間は、急かされる事もなく、騒々しくもなく、まるでゆっくりとたゆたう帯のように流れていきます。どの場所も、どの人も、それぞれのリズムで暮らしているながら、不思議とそれらが結びつき、調和しているのです。長濱の稲穂の波、金剛山の麓を吹き抜ける潮風、海塩おじいさんの薪で炒った塩の香り、成功港に響くカジキの競りの声、山と海の間で静謐に息づく芸術、月明かりの下に溢れる音符の波の音——これらの一つ一つが、台湾東海岸の風景を形作り、旅人の心にかげえのない記憶を残してくれます。

ここでは忙しくスケジュールを立てる必要も、有名なフォトスポットを追いかける必要もありません。ただ、潮風に身を任せて歩き、立ち止まり、雲を見上げ、波の音に耳を傾け、地元の人といくつか言葉を交わせば、「スローライフ」とは何か、自ずとわかってきます。東海岸は旅の終着点であると同時に、新しい生き方の始まりでもあるのですから。

編集部おすすめスポット



Google Map!



成功鎮漁港



5 成功鎮漁港

新港漁港とも呼ばれるこの港は、東海岸で最大の漁港で、特にカジキやシイラが有名です。毎日昼過ぎに行われる競りが大きな見どころの一つで、その活気あふれる様子は、多くの観光客を惹きつけてやみません。

📍 台東県成功鎮港辺路19号 🕒 10:00~17:00

6 月光・海音楽祭

台湾東海岸の夏を彩る、最もロマンチックな音楽イベントの一つです。今年は「大海へ繋がる場所」というテーマで、太平洋をバックに、日の入りと月の出、潮の満ち引きといった自然の営みの中で、数々の音楽の饗宴が繰り広げられます。

📍 台東県成功鎮信義里新村路25号
*開催時間の詳細は公式サイトにてご確認ください。

1 金剛大道

台東縣長濱鄉の長光部落に位置するこの場所は、真っ直ぐに伸びる道路の両側に並んだ棚田が広がり、遮る電柱も無く、広大な眺望が魅力で、“東海岸の伯朗大道”と呼ばれています。

📍 台東縣長濱鄉長光產業道路

🚌 興東バス8101・8102・8105・8119に乗車、「長光」下車。台11線を北へ進み、忠孝路に入ってそのまま進むと到着。



金剛大道

成功海銀行



3 成功海銀行

かつて銀行だった建物を改装して造られたこのレストランでは、港町の風情と地元の海鮮料理を融合させた「船長の波乗りセット」や「海女さんの潮間帯セット」などのメニューが楽しめ、地元の海女文化、漁村文化をリスペクトしたものとなっています。更に潮間帯体験プログラムもあり、海岸採集の文化をより深く知ることができます。

📍 台東県成功鎮中華路66号 🕒 木曜～月曜 11:30～19:30 / 火・水曜休

2 海塩おじいさん

台東縣長濱鄉の永福部落に位置するこの場所は、伝統と体験を融合させた、手作り海塩の製造空間です。薪を焚き、塩を煮詰める工程に参加でき、海水が塩の結晶へと変わる過程を体感しながら、アミ族の伝統的な製塩技術を体験することができます。

📍 台東縣長濱鄉竹湖村永福5号 🕒 09:00～18:00 / 要予約



海塩おじいさん

4 足跡再現生活館

足裏健康法、シェフのおまかせ料理、そして海の見えるカフェが融合した複合スペースで、旅行者は美しい太平洋を眺めながらリラックスしたひと時を楽しむことができます。

📍 台東県成功鎮中山東路46号 🕒 土曜～木曜 09:00～17:00 / 木・金曜休



PART 3

小琉球

自然と一番親密な場所
ウミガメと泳ぐ島の日常



東港から船に20分ほど揺られると、潮風の香りがおたやかに移り変わっていきます。そして珊瑚礁に抱かれた島。小琉球の姿が視界に飛び込んできた瞬間、まるで時間までもが、その歩みを緩めたかのようにゆっくりと流れていくのです。

小琉球は、台湾で唯一の珊瑚礁の島で、海岸線は7kmにも満たない小さな島ですが、透き通るような青い海にすっぽりと囲まれ、その海は大きな潮の流れや波も少なく、その穏やかさそのものが、この島の魅力となっています。小琉球で暮らし始めて17年になる呉浩さんは、「ここにあるのは、心臓が高鳴るような刺激的な海ではなく、その中に身を委ねると、呼吸がゆっくりとほどけていくような、まるで家庭のような親しみを感じさせてくれる海です。」と語ります。

この海には、確かに一瞬で心奪われてしまふ、不思議な魅力があります。この海に潜ってまず目に飛び込んでくるのは、ゆらゆらとたゆたう広大な海藻の森と、色とりどりの珊瑚礁です。水流は穏やかで、視界も澄み、ダイビング初心者にとっても理想的な入門スポットです。もち

ろん、ベテランダイバーも何度でも訪れたくなるような魅力に溢れています。ロブスター洞岩の隙間から、美人洞の周囲に広がる斜面の生態系まで、小琉球の海底には、この島ならではの繊細な生態が隠されています。そしてこの海は、心を静めて目を凝らす場所、そして、思わぬ出会いが生まれる場所なのです。

冬がやって来ても、東部の海は季節風によって荒れる一方、小琉球はいつも通り穏やかなまです。この気候のお陰で、小琉球は台湾でも珍しく、四季を通じてダイビングに適した「ダイビングの楽園」となっています。早朝に海に入ると、斜めに差し込む太陽の光が水面を照らし、まるで水中に金粉を振りまいたかのように輝いています。午後にはシュノーケリングをすると、透き通った海中の底の輪郭まで、はっきりと目に見ることが出来ます。こんな環境にいるとつい、もう少し長く海の中に浸かっていたいくなりますよね。

そして、この海で最もよく出会う生き物は、魚の群れではなく、海の人気者——ウミガメです。

アオウミガメのいる暮らしくは、小琉球では昔から日常に溶け込んだ光



サンゴ礁に囲まれた小琉球は、透き通る海が広がり、いつでも気軽に海に潜ることができます。

景でした。ここは世界でも有数のウミガメの生息地のため、シュノーケリングでもスキューバダイビングでも、必ずと言っていいほど、ウミガメがサンゴ礁の間で海藻をかじっている様子に出会えますし、海底でうとうとしている様子や、運がよければ岸辺に立って覗いてみるだけで、悠々と泳いでいる姿を目撃できます。彼らにとって、この海は家ですが、私たちにとって、この出会いはかけがえのない宝物なのです。

更に、この島においてウミガメは単なる観光客のスター的な存在ではなく、島の住民として正しく認識・記録され、大切にされています。

このウミガメを愛する若者たちや市民団体によって始められた「ウミガメ戸籍プロジェクト」は、ウミガメと島との関係が最も具体的に現わされている取組みです。このプロジェクトでは、ウミガメ一匹一匹の顔や鱗の形や並び方といった特徴を撮影し、Photo IDを使ってデータベース化しています。これまでに3000を超える目撃データが保存され、800匹以上のウミガメが記録されてきました。新しいウミガメが発見されると、最初にその個体を



島を一周する沿岸道路では、美しい海の景色を存分に楽しめます。

撮影したダイバーが名付け親となり、それぞれのウミガメに名前と特徴の記録が残されます。もしかしたらあなたも、カメラにぶつかるのが大好きな「ゼニガメ」や、背中がフジツボだらけの「フジツボ姉さん」、いつも口に海藻を咥えている「くいしんぼ姉さん」に出会えるかもしれません。このように、名前を付けることによって、人とウミガメの間にはほんものの絆が生まれ、見つめるだけでなく記憶して守っていく、そういった関係性も描かれているのです。

しかし、観光ブームとシュノーケリングをする人々の増加に伴い、小琉球の海も次第に疲弊し始めています。シュノーケリング中にサンゴを踏みつけたり、ウミガメをしつこく追いかけたり、海辺の人の混雑が、島の生態系のバランスを音もなく変化させ、一見穏やかに見える海に、実は過剰な熱意の代償を密かに背負わせてしまっていたのです。



「Vamos」では定期便の船上体験を提供しており、より身近に、気軽に海とふれあうことができます。

このような反省から、吳浩さんのような地元の経営者たちは、海と共に生きる新たな方法を模索し始めました。「私たちは皆さんに、来るのを遠慮してほしいと言っているのではなく、人と海との間の距離をもっと健全であってほしいと願っているのです。」と彼は語ります。海岸に人が集中しすぎて、潮間帯に大きな負担がかかっているのを目の当たりにした彼は、「Vamos」というブランドを立ち上げることを思いつきました。このブランドは、船を拠点に、人々がもっと優しい方法で海に親しめるようにし、海のレジャーを岸ではなく、直接海の上で行うことで、海ももっと自然に向き合える方法を実現しています。

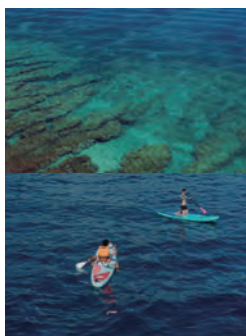
例えば、船の上でデッキに立って、ウミガメが水面に顔を出して呼吸する様子を眺めたり、船の後ろからスライダーで海に滑り降りて、シュノーケリングやSUPを楽しんだりすることができるようになっています。そうすると旅行者は、岩場の上を気を付けながら歩いたり、見知らぬ人々と一緒に海に入る順番を待つ必要もなく、ただ海と一緒に過ごし、ゆっくりと漂いながら、静かに海と

寄り添う時間をたのしむことができます。このような方法は、旅行の質を高めるだけではなく、生態系への影響も軽減することができます。

吳浩氏は、「この海が美しいのは、人に自慢して見せびらかす類のものではなく、また戻って来なくなるような場所だからです。」と言います。

小琉球は大きな島ではなく、派手な娯楽施設も多くありませんが、そこには喧噪を忘れ、心静かに眺めることのできるどこまでも青い海があります。

ここでは、ダイビングは「競争」ではなく一種の「理解」で、観光は「所有」ではなく「寄り添うこと」なのです。ウミガメと並んで泳ぎ、穏やかな海と共に過ごすことを学んだ時、旅の意義とは、どれだけ多くのものを見たかではなく、その風景とどれだけきちんと丁寧な時間を過ごせたかだ、ということに気付くはです。



編集部おすすめスポット



Google Map!



海島女巫商行



路边烤肉 WildBBQ 琉球69店



7 小本愛玉

こちらの愛玉専門店は、かわいらしいウミガメの形をした愛玉スイーツで有名なお店です。看板メニューの「ウミガメフルーツ愛玉氷」には、手作りの愛玉と数種類の新鮮なフルーツが入っており、見た目も愛らしく、暑さを和らげ、喉の渇きも癒してくれます。

📍 屏東県琉球郷信義路1号
🕒 09:30~17:30

8 海島女巫商行

台北の有名レストランで、パティシエのスーパーシェフを務めたNicoが創業したカフェ＆スイーツ店で、店内はボヘミアンスタイルのインテリアで統一され、全てのスイーツやドリンク、カクテルには、スパイスの要素が取り入れられています。

📍 屏東県琉球郷中興路33-58号
🕒 10:30~18:00 / 金曜休

9 路边烤肉 WildBBQ 琉球69店

古民家の風情と海の景色が融合した、串焼き専門店。お店は、杉福生態漁港のビーチのすぐ傍にあり、絶好のロケーションで美味しい料理を味わいながら、夕日や海の景色を楽しむことができます。

📍 屏東県琉球郷復興路23号
🕒 17:00~23:00 / 火・水曜休

1 花瓶石

小琉球の名所として挙げられるこの奇岩は、その形が花瓶に似ていることから、「花瓶石」と名付けられました。この岩は珊瑚礁でできており、長年に渡る波の浸食によって独特な形が形成されたもので、島で最も人気のある撮影&観光スポットの一つです。

2 美人洞

海沿いの遊歩道や海蝕洞の景観を楽しめる自然公園には、珊瑚礁の岩場と澄んだ海が広がり、気軽にシュノーケリングを楽しむ事ができます。また、運が良ければ、岸边に立って覗き込むだけで、悠々と泳ぐウミガメの姿を見ることができます。

3 落日亭

島の西側に位置する景観台は、夕日が水平線に交わる光景を眺めることのできる絶好のスポットです。また、夜には星を鑑賞するにもぴったりの場所となっています。

花瓶石



小山看海芸文園区



Bluemurmur | 黙藍



美人洞



Vamos

小本愛玉



4 小山看海芸文園区

カフェ・食事・アートが融合した海の景色を楽しめるパークです。園内には、ハンモックエリアがあり、訪れた人々が寛ぎながら海や夕日を眺めることができます。また、不定期でアートイベントや展示、体験型のワークショップなども開催されています。

📍 屏東県琉球郷美人路1号
🕒 10:00~21:00 / 不定休

5 Bluemurmur | 黙藍

小琉球で有名なダイビングブランドで、海を愛し、地元の生態系に精通したインストラクター達によって運営されています。専門的なダイビング講習やガイド付きダイビング、海洋に関する教育を提供しており、全ての受講者が海との対話を学べるよう、尽力しています。

📍 屏東県琉球郷三民路1之56号
🕒 要予約

6 Vamos

このブランド名は、スペイン語で「さあ、行こう!」という言葉に由来しており、旅人を気軽に、海へと誘うイメージがダイレクトに伝わってきます。ここでは「船から始まる」海のレジャーをコンセプトに、SUPやカヌー、シュノーケリングから日光浴まで、海と心地よく自由に向き合えるアクティビティを提供しています。

MATSU, LIENCHIANG

世界に羽ばたくアートの島・馬祖

島の心と記憶を海からみる



台湾で最も北にある諸島・馬祖の人々は、長い間にわたり風、波、霧とともに過ごしてきました。ビエンナレ「馬祖国際藝術島」は、今年三回目を迎え、「拍楸（パアユウ）——あなたの海、わたしの陸」がテーマとなっています。「拍楸」とは福建省東部沿岸地域にルーツを持つ「閩東語」による伝統的な定置網漁を指す言葉で、潮の満ち引きのタイミングを見計らい、集落全体が心を一つにした共同作業によってはじめて成果が得られるというものです。

キュレーターの呉漢中（ゴ・カンチュウ）さんは、これは単なる技術ではなく、島の暮らしの哲学の縮図であると感じたそうです。目まぐるしく表情を変える海に対して、私たち人間は団結してはじめて、魚を網に導き光を迎えることができるのです。

馬祖国際藝術島は「拍楸」そのもの

このビエンナレでは「拍楸」をコンセプトに、招聘されたアーティスト、建築家、デザイナーらが馬祖の海辺や山村、そして坑道や軍事拠点において作品の製作に取り組む、

編集部おすすめの 作品4選

1

北竿発電所「軍魂之光」



すでに閉鎖された地下発電所が照明のアートで新たに生まれ変わりました。軍の歴史と発電所の思い出があいまった、北竿を代表するこのパブリックアートは、アメリカのMUSE Design Awardsで金賞に輝きました。

2

「海就是我的陸」(海は私の陸地)



先住民のアーティスト、Iyo Kacaw (伊祐・囑照) さんが退役した軍艦のパーツで創作した作品で、馬祖と海の暮らしのつながりを象徴するように、漂泊とふるさとの想いを表現し、島の人々と海との共生を考えさせてくれます。

3

轉厝計畫「打開」(民家改造計画『開く』)



津沙の集落にある古い民家を活かしたアートで、ガラスの酒瓶を積み上げた光が透ける壁の窓から海を眺めることができます。馬祖の伝統的な建築にまつわる思い出、時間、家の意義を問い直す作品となっています。

4

南竿26拠点「海角藝隅」(海の片隅のアート)



元軍事拠点をアートの広場にする試みで、坑道のそのままの姿を残しつつ、オープンな歩道と景色が楽しめる空間とつなげることで、歴史と自然が対話する場となっています。

たくさん海の海にまつわる作品が制作されています。南竿郷(ナンガンきょう)の津沙村の『打開(ひらく)』は、ガラス製の酒瓶をトーチカの壁の形に積み重ねた作品で、瓶を通して差し込む海からの反射光がこだまのように広がり、自宅で酒を醸造してきた馬祖の人々の暮らしを伝えます。馬祖の砂浜の『海是我的陸(海はわたしの陸地)』は、退役した軍艦や台湾本島と馬祖との間を運航していたフェリーの部品を使い、浜に横たわるクジラのように組み立て、いつも船と共にあった島の人々の日々を思い起こさせてくれます。

馬祖の地形は特殊で、島中に軍事施設跡がありますが、このうち今年には特別に二六、七七、五三などの拠点が開放されます。元軍事施設の文化的な活用を目指す「拠点翻訳計画」では、建築家による設計と再構築を通じて、芸術と歴史の対話を実現しています。北竿郷(バイガンきょう)の『軍魂電廠(軍の魂をもつ発電所)』は、ドイツ製の古い発電機に音と光を合わせることで、一度は忘れられた「発電の記憶」をあらためて耳で聞き、感じる作品です。

呉漢中さんは、「企画しているときにあることをふと思っただけです。無から有が生まれ、その有が日常になるというのはどういうことなのか」と語ります。ピエンナレは第一回、何もないところから作品が生み出され、そして徐々に島の人々と共に作品を作る場へと発展してきました。この間、ますます多くの住民が自宅のスペースの提供を申し出たり、ピエンナレの構想に関わったりするようになっていきます。北竿郷でタクシーを運転する王雪花さんは、作品の展示場所についてキュレーターにアドバイスし、また島のお年寄りがピエンナレのテーマについて積極的に意見を述べたりするなど、アートがもはや日常に溶け込み、島民共通の思い出と誇りになっています。

男木小学校とコラボ、海を隔ててつながる子供たち
地元の人たちとのつながりだけでなく、今回のピエンナレでは、日本の瀬戸内海の男木小学校とコラボし、馬祖の小学生在が創作をめぐる交流を通じて日本の子供たちと友情で結ばれました。キュレーターによると、馬祖の子供たちは学校が始まる初日に同級生全員と直に顔を合わせますが、このような子供時代は他の場所では滅多にあるものではなく、離島で育つとはどういうことかを考えさせてくれます。子供たちはアートを通じ、世界への架け橋を見つけ、遠くの世界に思いを馳せることができるようになります。

外から訪れる人々にとって、馬祖は台湾の端っこにあるだけでなく、台湾を理解するための玄関といえるでしょう。お天気のいい日には、対岸にある中国まで見渡すことができます。このような地理的な要素から、馬祖は歴史、政治、文化が交わる最前線にあります。ここで培われてきた言葉は、島という場所から与えられた深みと柔軟性を備えつつ、海底の発電所や軍艦の残骸から酒瓶を積み上げて作られたトーチカまで、すべてこの大地から生まれたものです。馬祖に初めて足を踏み入れたなら、アートバスに乗って、五つの島を駆け抜け、昔の軍事拠点や坑道を訪れ、風を感じ、酒を味わい、海の声を聴いてみてください。

愛しの台湾味

SLOW FOOD TAITUNG

SLOW FOOD TAITUNG

地域の味に
触れ、
風土を料理に
取り込む

台東スローフードフェスティバル

吹き抜ける海風と碧い波間、台東・成功の海辺で、海女の先生に潮間帯の楽しみ方を教わりながら、新鮮な巻貝や海藻を採集して、「今日は天候があまり優れない？ それなら明日また来よう」という日々を大切にするライフスタイルも学べるのです。地元のフレンドリーなお店の方々と語らいながら、月桃(ゲットウ)の葉を皿代わりに使ったシイラのから揚げや、海藻を練り込んだ米粉のお好み焼きに舌鼓。黒潮が運ぶ豊かな海の幸を、五感で味わい尽くすひとときです。

例年春と秋に二度開催され、毎回熱心なファンで賑わう「台東スローフードフェスティバル」は、近年台東を代表するマーケットイベントとなりました。イタリア発祥の「スローフード(Slow Food)」という言葉をご存じの方も多いでしょう。地元食材と食文化を重んじ、一口ごとに「高品質・純粹・公正」という精神を伝えることを重視しています。

台東スローフードフェスティバルのキュレーターであり、国際スローフード協会台東支部代表でもある郭麗津(クオ・リージン)さんは、この運動を台東に根付かせた立役者です。十数年前、仕事の縁で台東を訪れた彼女は、ここならではの食材や多文化が織りなす食の風景に深く魅了されました。「スローフード」を通じて、台東の豊富な産物や食文化の奥深さを、より多くの人々に知ってもらいたい——そんな思いで今日まで活動を続けています。

土地の記憶に触れ、 広がる食材の新しい物語

「産地から食卓へ」、「地元で味わい、旬を楽しむ」というコンセプトのもと、花と果実をテーマに彩る「醒食テーブル」、発酵の魔法を体感する「起酵テーブル」、朝食を主役にした「朝食テーブル」など、毎回ユニークで想像力に富んだテーマが示されます。旬の地元食材を使った料理に舌鼓を打ち、小さな地元旅を体験し、各地の料理人や職人たちから、食文化にまつわる物語を直接聞くことで、スローフードフェスティバルは台東の大切な食の記憶と祝祭として根付いてきました。

今年では人間が自然と最初に結びついた営みである「採集」にフォーカス。春季(4月)は「潮間帯」を、秋季(10月)は「森林山野」をテーマに掲げ、「採集テーブル」と銘打ちました。郭さんはこう語り

ます。「採集は人類が最初に身につけた生活の知恵ですが、食があ

まりにも便利になった今、その労働感や時間の流れを忘れてしまっています。台東は恵まれた自然環境と豊かな原住民族文化を有し、沿岸から山林まで多彩な採集文化が今なお息づいています。そこから学ぶ価値は計り知れません。

これまで20回を超える開催を重

なる中で、何より尊いのは「共に学び、共に創る」精神だと郭さんは強調します。「台東という土地に集まった人々が、伝統的な食文化を再解釈しながら、新たな創造へと挑んでいます。毎回新しい仲間が加わり、新旧の店が異なるテーマの料理によるコラボレーションを通じて、

熟成豚肉のおにぎり～Siraw /



部落の伝統や家族の記憶を掘り起こし、それぞれが最もユニークなレシピを生み出すのです」。

今回のテーマに呼応し、「小米」(アワ)文化の再興に取り組む「Kalia(ガイアナ)ワークショップ」の主催者は、子どもの頃に、トマト味のサバ缶をアワご飯に混ぜて美味しく食べた思い出をもとに、台東で獲れる「三點仔」(スミ)を使ったトマト煮を考案し、薪火でじっくり炊いたアワ飯と合わせ、新たな一皿を生み出しました。また、地元で人気のネギクレープ店「海遊製造所」は、採集した海草を生地に練り込み、「山蘇」(オオタニワタリ)や海藻を使ったネギクレープを考案。原住民食材と台湾のスナック文化が見事に融合しています。

／さばのトマト煮添えアワご飯／



SLOW FOOD TAITUNG



台東の豊かな自然に抱かれて開かれるスローフードフェスティバルは、毎回、土地の風土や食文化を愛する旅人たちを惹きつけています。



スローフードの精神を体現するように、料理を盛りつける器にも葉っぱなど自然素材が使われています。

多彩な料理が集い、台東 の豊かな恵みを直に体感

もともとご当地の味わいを求める日本人の旅人にとって、2日間のフェスティバルは料理人や生産者との交流を深める絶好の機会だと、郭さんは語ります。美味しさ

を堪能するだけでなく、台湾在来種のバナビーンズ、地元栽培の大豆と米麴を使った味噌、台東限定の白米や野生トマトなど、台湾東海岸が誇る食資源を知ることができます。そして、なかなかお目にかかれない先住民族の集落の食文化にも触れられるのです。

郭さんはアミ族の伝統的な「Siawシラウ」(生豚肉)という例を挙げています。日本人には馴染みのない風味ですが、炙っておにぎりすると新鮮なミクスチャーが生まれます。また、日本酒文化には自信がある日本人をうならせるのが、台東の部落で古来の醸造法を守り、「大葉田香」(オオバコ科シソクサ属)や「過山香」(ミカン科ワンピ属)、「雞母珠」(トウアズキ)など9種の植物を採集して作るもち米酒「出力釀」。どんな香りが広がるのか想像しながら、ぜひ一度味わってみたい一品です。

台東スローフードフェスティバルは単なるグルメイベントではありません。舌だけでなく、心までも満たされる体験の場。「家族そろって木陰でピクニックを楽しんだり、屋台をめぐりながら店主と語り合ったり、料理を味わったら、持参した食器を洗って次の屋台へ。そのゆったりとしたひとときが、日頃の食物、料理との関係を見つめ直すきっかけになるのです」。郭麗津さんはこう願っています——より多くの人が台東を訪れ、スローフードフェスティバルに参加し、風土の味を堪能し、

語り継がれる物語に耳を傾け、海風と青空に包まれながら、自然との距離がぐっと縮まるひとときを体感してほしい。そして、土地と自分を大切にその感覚を胸に、日々の暮らしへと持ち帰り、実践し続けてほしいと。

今年10月の秋季フェスティバルでは、初めて北海道美瑛町の高校生と交流活動が行われ、双方が採集の知恵を交換予定。また、12月には高雄での巡回イベントも開催され、台日交流をさらに深める体験や展示が行われる予定です。ぜひゆったりとしたスローフードの豊かな時間を体感してください。



台東スローフードフェスティバル

秋季は10月開催、詳細未定。最新情報は公式ウェブサイトにてご確認ください。

上 | ひと口でお米のやさしい甘みが広がり、素材の持ち味を大切にする——スローフードの精神が詰まっています。

下 | 山蘇と海藻のネギクレープ。

SLOW FOOD TAITUNG

SPORTY TAIWAN

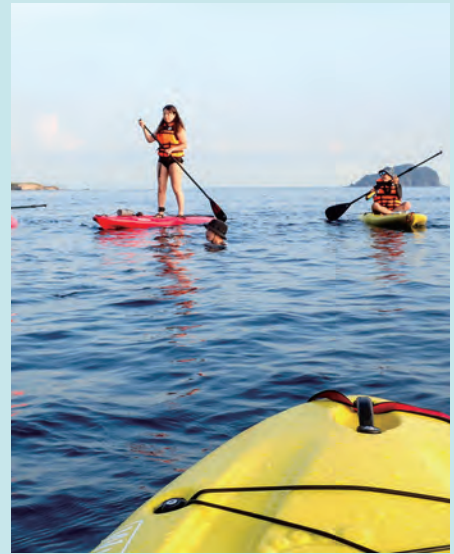
SUP でめぐる 台湾の水辺風景

北から南へ、
海と湖が織りなす多彩な表情



四方を海に囲まれた台湾。北から南へと続く海岸線はそれぞれ異なる表情を見せてくれます。さらに穏やかな水域や山々に抱かれた湖、山あいの川など、多様な水域が点在し、SUP（スタンドアップパドルボード、通称サップ）を通して、一人での冒険から家族や友人、愛犬とのゆったりとした時間まで、さまざまな楽しみ方が広がります。近年では、水面に留まれる特性を活かした

「SUPヨガ」など、よりチャレンジングな楽しみ方も登場しています。SUPで台湾各地の水域を巡りながら、インスタラクターと共に海へと漕ぎ出します。朝焼けや夕暮れの空に移ろう色彩や光の微妙な変化を見つめ、大自然の懐に身を委ねて、水面のさざなみに揺られながら、台湾が持つ多彩な表情に静かに触れ、各地の湖や海と語り合うようなひとときを過ごしましょう。



秘境・燭台嶼

新北・金山

夜明けの空を黄金色やローズ色に染める燭台嶼（ジュタイユー）の風景は、まさに「人生初のSUP日の出」にふさわしい絶景スポットです。穏やかな海面を滑るように進み、海蝕（かいしょく）によって生まれた燭台嶼の岩々を眺めながら、やがて神秘的なビーチへとたどり着きます。空の色が移ろう様子をじっと見つめながら朝日待つのも良し、SUPの上から周囲の海を巡って、北海岸の荒々しくも美しい岩岸の景観を満喫するのも良し、いずれも台湾北海岸ならではの景色を楽しむことができます。

集合場所 水尾漁港

アクセス

- 台北駅（東三門）から國光客運1815番バスに乗り、「金山郵局」（金山郵便局）バス停で下車。民生路を通過して徒歩約20分。
- 淡水MRT駅前から淡水客運863番バスに乗り、「金青」バス停で下車。磺港路から民生路を曲がって徒歩約15分。

Google Map



龜山島ミルクシー

宜蘭

3月から10月、東北季節風が吹く季節には、宜蘭沖に浮かぶ龜山島（グイシャンドウ）のミルクシー海域が、SUPに最適なスポットとなります。この海では、台湾で唯一の活火山である、亀のような形をした龜山島を、間近で眺めることができます。さらに島の周辺では海底から温泉が湧き出し、海水と混ざり合うことで、ブルーと乳白色が重なり合うグラデーションが広がります。この「ミルクシー」は、日に

集合場所

烏石港遊艇碼頭

（烏石港ヨットマリーナ）

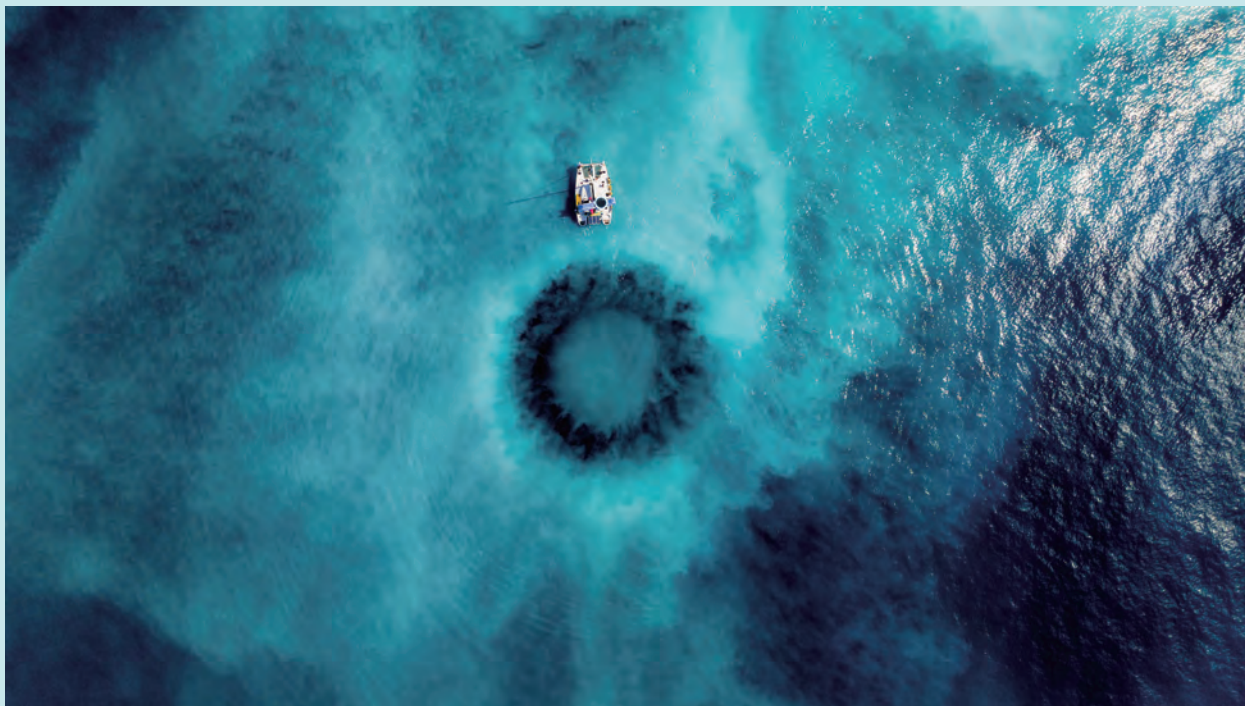
アクセス

台鉄の「頭城駅」または「礁溪駅」で下車後、バス131番に乗り、「烏石港」バス停で下車。そこから徒歩約5分。

Google Map



よって海の色合いや模様が微妙に変化します。SUPでその海面を滑るように進めば、まるで色彩の層の上を漂っているかのような、不思議で心地よい感覚に包まれ、この特別な海の美しさを五感で存分に味わうことができます。

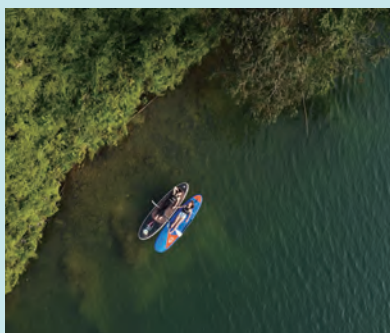


日月潭

● 南投・水社埤頭／
朝霧埤頭

台灣屈指の観光地である日月潭（リーユエタン）は、年間を通して多くの観光客で賑わう人気スポットです。SUPで湖上を滑る体験は、朝焼け、日中、夕暮れと、それぞれ異なる美しさを見せてくれます。

静かな湖面は初心者にも安心で、ゆったりとパドルを漕ぎながら、穏やかに静寂な日月潭の水面を滑っていくと、やわらかな日差しや黄金に染まる夕日に包まれながら、広がる雄大な景色を眺めることができます——それは日月潭を別の角度から楽しむ体験であり、深く心に響く邂逅でもあります。



集合場所

周辺のSUPアクティビティ主催
会社の指定場所

アクセス

台湾高铁「台中駅」で下車、1階
5番出口・第3プラットフォーム
から「台湾好行」バスで日月潭へ。

Google Map



清水断崖

● 花蓮

東部の名勝・清水断崖の海岸線は、独特かつダイナミックな景観の一つです。多くの人は上から見下ろしますが、SUPの経験が豊富で、やや波のある海況に対応できる方には、ぜひSUPでの挑戦をおすすめします。大自然の神業とも言える清水断崖を海上から眺め、高さ約800メートルの壮大な大理石の崖壁を広い視野で仰ぎ見ることができます。特に早朝、日の出の時間帯に訪れば、朝日に染まる黄金色の水面と、岩肌に反射する光の美しさを存分に堪能できます。

SUPで海上を漂いながら、台湾の自然が生み出した壮大な造形美を全身で感じられます。



集合場所

周辺のSUPアクティビティ主催
会社の指定場所

アクセス

- 花蓮駅から「崇徳」方面行きの統聯バス、または310番バスに乗りし、「崇徳」バス停で下車。
- または「崇徳駅」から北へ、「和仁駅」から南へ徒歩でアクセス可能。

Google Map



雑誌『FOUNTAIN 新活水』とは

FOUNTAIN 新活水の毎号のテーマは社会の脈動と密接に関連しています。文化的観点から、地域・境界・世代を超えて交差する精神を強調し、重要な問題や現象の詳細な討論と発掘を行っています。鮮烈な視覚的美学が魅力の雑誌は文化的対話を構築するための重要なプラットフォームになっています。



Profile MINNAZOO / 沈恩民

彰化出身、台北の内湖に流れ着いたフリーランサー。デザイン会社でアートデザインなどを手がけた経験あり。山や森、自然が大好きで、言葉とイラストで地元のあれこれを表現するのが得意。

東の方角には基隆山、
九份の街を望むことができます



☆ 内湖金面山 ☆

大屯山 1092M
七星山 1120M

台北市の中心部にほどこかい内湖に位置する金面山。
清の時代には採石場であったため、
たくさんの史蹟が残されています。
尾根と山頂はすべて巨大な岩石でできていて
石英の成分が含まれているために
日光のもとで山頂がきらきらと輝きます。
海拔はたった 258 メートルですが
眺望はすばらしく台北市が一望できます。
運動したり、絵を描いたり、心が安らぐ秘密基地です。

西の方角には観音山

觀音山
616M

清代採石場

關渡

北投

士林

社子

大直

基

隆

大同

信義我

台湾における朝食の社会学



案内人

洪郁如 こう・いくじょ

一橋大学大学院
社会学研究科 教授

専門は台湾近現代史。台湾大学法学院政治学系卒業後、1992年に日本台湾交流協会の奨学生として日本留学。東京大学学術博士。在日年数が台湾を離れた時の年齢を上回ったことに気付いた時、ここが自分の第二の故郷だと改めて実感した。歴史の旅も、美食の旅も好む。故郷の味といえば、彰化県溪湖鎮の名物「羊肉爐」であり、ニンニクと胡麻油が効いている台湾風そうめん、羊肉スープをかけて食べることは、至高の贅沢である。

*主な著書・論文

『誰の日本時代—ジェンダー・階層・帝国の台湾史』（法政大学出版局、2021年）

『近代台湾女性史—日本の植民統治と「新女性」の誕生』（勤草書房、2001年）

私の記憶のなかに、母が朝食を作る姿はない。小学生の頃、朝、目が覚めると食卓にはもう朝ごはんが置かれていた。前日に町で唯一のパン屋で買ってきた食パンと牛乳、ときには温かい豆乳、米乳、饅頭（マントウ、餡が入っていない小麦粉製の中華風蒸しパン）、包子（中華まん）である。洋風、中華風のどちらでも、私たちは大好物だった。

両親がともに教員の我が家では、夜遅くまで働いた母を少しでも朝寝させようと、父はよく早起きしてバイクで買い出しに

行った。私は中華風の小麦食のラインアップが特に好きだった。中国北方から戦後、台湾に移り住んできた「外省人」のお爺さんの手作りの朝食は絶品で、二、三坪しかないその小さな売店は毎日、早朝から賑わっていた。私の母方の祖父母は同じ町に住んでおり、土日に遊びに行くと、朝ごはんは決まってお粥と台湾風の漬物、干し大根入り卵焼きだった。

高校に上がると弟も私も隣の市までバス通学になったため、父が用意してくれたごはんを急いでカバンに入れ、車中、あるいは

は教室に着いてから食べることもあった。父の出勤が早い日は朝食を準備できないこともあり、私たちは卓上に置かれた小銭をポケットに入れ、通学途中に好きな朝食を買った。

だいぶ後になって分かったが、朝ごはんをめぐる雑多な個人的記憶は、戦後台湾朝食史を反映したものだった。朝食は台湾社会の縮図であり、台湾を知る一番の近道でもある。日本人旅行者にとっても、最も印象深いものの一つは、台湾の「朝食屋」であろう。街に一步踏み出すと、日本では想像



SNET台湾 とは

2018年9月に発足したSNET台湾（NPO法人日本台湾教育支援研究者ネットワーク）は、台湾について知りたいすべての人と台湾を専門とする研究者をつなぐプラットフォームです。

台湾研究の成果を学びのコンテンツに変えて広く社会に発信し、日台間の相互理解の深化に寄与することを目的として設立されました。未来に続く真の友好は確かな相互理解の土台の上に築かれると、私たちは考えています。

SNET台湾といっしょに台湾の新たな魅力を発見してみませんか？

できないほどの多彩な朝食風景が目飛び込んでくる。台湾住民の外食率の高さは以前から知られている。朝食に関するある調査によれば、二〇一〇年代に入ると台湾の外食率は7割を超えた。これは昼食の外食率の5割強と夕食の2割強に比べるととりわけ高い。

三食の中でダントツに高い朝食の外食率の背後には、労働力、産業、ジェンダー構造、食習慣など複合的な要素が絡み合っている。一九八〇年代以降の台湾の経済発展にともない、女性の就業率は高まった。政府の統計によれば、一九九七年、女性の就業率は25・49歳の各年齢層の全てで60%を超えた。二〇一七年にはさらに増加し、25・49歳のいずれも70%以上になり、その内訳は25・49歳で89.73%、30・34歳で84.15%、35・39歳で76.86%、40・44歳で76.39%、45・49歳で73.53%に達している。

女性の就業はパートではなく男性と同様のフルタイムが普通であり、結婚と同時に仕事をやめて専業主婦になることはほとんどない。妻や母を含む家庭構成員が全員、慌ただしく通学や通勤に向かう中で、家庭内に「朝食料理人」が不在であるのも理解できる。

性別による労働時間に差がない以上、男女のどちらか一方に料理の担当を押し付けるのは不合理だが、伝統的観念から、就業の有無にかかわらず依然として女性への家事要求が高くなる現実も存在している。にもかかわらず、台湾では夫や子供より早起きして朝食を用意する女性はやはり、非常に少ない。

ジェンダーの視点からみれば、朝食だけではなく、台湾社会では料理をはじめ、家事能力から女性を評価したりはしないし、女性自身も家事能力を自己評価の尺度としない。

料理というものが、母の子に対する愛情表現と結び付けて考えられることもない。もっとも、女性に家事を求める伝統的な社会規範がこのように変化したのは、戦後しばらく経ってからのことである。一九八〇年代の台湾経済の高度成長期、朝食の最も大きな変化は、チェーン店の出現と急速な拡大である。

従来の個人経営の店舗から、企業的経営を行うチェーン店やフランチャイズの朝食店が大きく成長した。中華食のほかにも、洋食中心の「美而美」、「美又美」などの店舗数が大きく増加した。

メニューにはサンドイッチ、ハンバーガー、ミルクティーやコーンスープも加わった。

一九八〇年代の台湾女性、そして多くの台湾人家庭の朝は、このような朝食の外食化により支えられた。逆にみれば、このような朝食産業の活況を可能にした要因は、女性労働力が全面的に市場に参入した点に求められる。

Googleマップで眺めると、朝食屋は学校周辺に密集する傾向が一目瞭然である。制服姿の生徒たちは登校途中にそれぞれ好きな店に立ち寄り、温かい朝食をテイクアウトする。店内で食べる生徒が少ないのは、のんびりしてはいられないからだ。

生徒の自主調査により、人気の朝食店ランキングを公表している高校も少なくない。日々の受験勉強の重圧の中で、台湾の中高生たちは小銭を手に握り、通勤路を急ぐ親たちと同様、朝からそれぞれ好きな食べ物を選ぶことで、「朝食の自由と民主」を最大限に享受している。

読者の皆さんも次回の訪台で、朝食からみた台湾社会の街頭観察に出かけてみてはいかがだろうか。

《太陽のふるさと》

李敏勇 作



日々
朝日が昇るたび
屏東（ピンドン）の東の海から
黄金色の希望が私を照らしてくれる
山の景色
田畑の景色
なんと素晴らしき
ニチニチソウの如き青々しさ
日々
夕日が沈むたび
屏東の西の海から
暖かな色彩が私を見守ってくれる
町の風景
農村の風景
なんと可愛げ
四季の花のような美しさ
屏東 太陽のふるさと
屏東の人は心から愛する
屏東 誇らしげに輝く四季が満ちている
台湾の南の端のよき郷

每一工
日頭出た時
屏東東邊の海面
金色希望照著阮
山の景色
田園的景色
真出色
青翠親像日日春
每一工
日頭落去の時
屏東西邊の海面
溫暖色彩在看阮
街市的景致
田庄的景致
真標緻
美麗干若四季紅
屏東 日頭の故郷
屏東人満心の所愛
屏東 四季充滿光彩
台湾南邊の好所在

Profile

李敏勇 リー・ミンヨン

台湾屏東人。1947年高雄で生まれ、大学時代は歴史を専攻。現在は台北市民。大学卒業後文学界に身を投じ、時誌「笠」の編集、「台湾文芸」社長、「台湾筆会」会長などを歴任。著書は『雲的語言』『暗房』『鎮魂歌』、中英対訳時集『思慕與哀愁』などの作品のほか、散文、小説、文学評論、社会評論集など90冊あまりを数える。巫永福評論賞、吳濁流新詩賞、頼和文学賞、第11回国家文芸賞、2022年第4回行政院文化賞受賞。





CREATIVE EXPO TAIWAN WATER SCAPES

2025 臺灣文博會 水風景

08.02 SAT ————— 08.11 MON

文化策展區

松山文創園區
第2-5號倉庫 | 北向製菸工廠

08.05 TUE ————— 08.11 MON

品牌商展區

南港展覽館1館1樓

主辦單位  文化部

合辦單位  國立台灣工藝研究發展中心

TAICCA 文化內容策進院
TAIWAN CREATIVE CONTENT AGENCY

協辦單位  TAIPEI

執行單位  台灣設計研究院

廣告

NANGAN

BEIGAN

JUGUANG

DONGYIN



馬祖
pha jiu



馬祖國際藝術島 MATSU BIENNIAL 2025 9.5—11.16

あなたの海、わたしの陸 YOUR SEA MY LAND

"Sióh-ál Liā-ál!" みんな集まって! ひとつの網がひとつの家族を養い、ひとつの魚網がひとつの島を支える。海底に打ち込まれた杭、生活に根付いたアート作品。数え切れない手によって作られてきた杭と網。ようこそ馬祖へー 水水平安(航海安全)

指導單位：文化部／交通部／交通部觀光署／國家發展委員會／陸軍生立榮辦公室／連江縣議會 主辦單位：連江縣政府／中華文化總會 協辦單位：交通部觀光署馬祖國家風景區管理處／陸軍馬祖防衛指揮部／國立新竹生活美學館／台灣電力股份有限公司／金鼎建設股份有限公司／南平鄉公所／北竿鄉公所／馬光鄉公所
策劃協理：馬祖日報社／馬祖西報實業股份有限公司 策劃單位：連江縣政府文化處／馬祖國際藝術島專案辦公室 贊助單位：合作金庫商業銀行／臺灣證券交易所／證券櫃檯買賣中心／臺灣集中保管結算所／臺灣郵政交站所／中華電信股份有限公司／台灣世緯工程顧問股份有限公司 公益單位：IPASS一卡通／臺北捷運
全家便利商店／UNIQLO TAIWAN LTD./ 吉龍 / yoki / iRent 特別感謝：公益財團法人日本台灣交流協會台北事務所／台灣觀光協會／中華郵政股份有限公司臺北郵局 承辦商：遠東中（社計有限公司）行銷統籌：程詩婷（左攝創策）策劃：劉麗婷（白日夢創策）策劃統籌：馮宇（F OFFICE）動感夥伴：駝二藝術家駐紮計畫 翻譯：陳合成老師（美加）